
劇場小説版ハッピーツリーワールド黒き宇宙に潜む危機シンシェニモン襲来！

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

劇場小説版ハッピーツリーワールド黒き宇宙に潜む危機シンシエニモン襲来！

【Nコード】

N2180J

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

破壊という大罪を司る。デーシンシエニモンの恐怖が解き放たれる。

(前書き)

劇場小説版の第三作目です。最後まで、見てください。

ある夏休み。

僕達は、宇宙政府という場所に来ているんだ。

実は、ある謎の生命体シンシャニモンという未知のデジモンなんだ。

どうやら発生源がはくちょう座Xー？というブラックホールから来ているんだってでも、このデジモン何かと謎が多いんだ。

しかも恒星や惑星などの宇宙的存在物を食い荒らしているんだって。

今、トウダイグサ・スカーレット大佐が追求しています。

劇場小説版ハッピーツリーワールド黒き宇宙に潜む危機シンシャニモン襲来！

「興味深いことがわかったぞ。」

トウダイグサ・スカーレット大佐が言った。

ブラックホールとシンシャニモンは星星を吸い込む時の感覚がとても非常に似ている。

つまりガスを取り込んでいる姿が似ている。

ただしこのデジモンは、重量が相当軽い。

「ブラックホールが重いのにたいしこいつは軽いつまりこいつはブラックホール型であるのたが言い難いというのか俺には分からない。」

カドルスは余計分からなくなった。

このデジモンはなぜ完全体なのかってことに意味が不明と化していた。

フレイキーとフリッピーは地球を見ていた。

その時地球を襲いに来た。

二体のシンシエニモンがいた。

どうやら会話が曖昧である。

「このままだと。」

と思った瞬間二体のシンシエニモンはデジタマに戻り消失した。

フォートレスマキシマスが地球を守っていた。

はくちょう座X-1?の中にいる魔物はイラついていた。

「ほおー私の生命体が気に入らんなんてなんて愚図どもだデーシエ

ンシニモンに逆らうに等しい宇宙をもつと食い荒らしなさい。」

なんとも恐ろしい気配がブラックホールの中で存在していた。

シンシエニモン「ホールブレンガー」

と言い惑星にキャノン砲からキャノン放った。

惑星は四分の一形を失った。

シンシエニモンに関する情報は、いたるところで繋がった。

シンシエニモンは紫色の体に黒い首をしているその首は何もかも吸い込んでしまう。

それはまるでブラックホールだ。

しかも翼が生えており、そこからキャノン放つ必殺技ホールブレンガーは惑星を四分の一破壊するという恐ろしいものだった。

更に完全体なのに究極体のような力も出せることから非常に強いブラックホール型デジモンということになる。

スプレندیッド「シンシエニモンなぞ倒せそうな敵だね。」

「は、ほん本当は怖いくせに。」

「ちよつとその言葉はなにかねメルヘン白昼夢軍人君。」

「っんだとこの変態ヒーロー。」

「君がいると本当に災いが来るんだよ覚醒殺暴残酷軍人君。」

「てめえいい加減にしろこの大馬鹿バーカ変態ナルシストヘクト大
変態エイプリルフル五行のすり切れもない糞クソヒーロー。」

ブディストモンキーは不機嫌な顔をしてた。

「またか彼らの愚痴喧嘩を止めるの僕の仕事じゃないのに。」

その時だった宇宙政府の第一艦隊が全滅した。

皆が緊迫した。カドルスも冷や汗をかいていた。

そこにモールが冷静に

「シンシェニモンの弱点は一体どこにあるのでしょうか？」

まさかのことを言われたことに宇宙政府にいるケロン人がモールに

「あなた盲目溺弱衝で見れるんでしょう。」

モールは言い返した。

「確かに私はその能力がありますが、あのシンシェニモンからは全
く其の力を聴くことができないのです。おそらくブラックホール型
デジモンの特徴かと。」

フレイキー「もしかしたらシンシェニモンってブラックホールの力
で拒否しているじゃないかってスニフルツズさんから聞いたよブラ

ツクホールはエックス線を激しく出しているってだからシンシェニモンにも同じことが通用するんじゃない。」

確かにブラックホールは、強いエックス線を出している。

とはいえ、シンシェニモンが出しているのかどうか分からないのが現状。

しかも宇宙政府の入り口にシンシェニモン数千体の姿が……壁を見ていたらシンシェニモンの姿が三体ここは地球今戦いが始まっている。

「デリート」

この声は、シャドーコンボイは、シンシェニモンを自らが持つ銃で撃っている。

しかし次から次へと増える敵に苦戦を強いられた。

宇宙空間でも戦闘ははじまっている。

セイバートロン星では、シンシェニモンが格段と数を増やしていた。

「これでは、キリがない仕方ないです十王よ目覚めの時です。我苦戦也。」

十王はシンシェニモンを一掃していた。

「やりますか。フォーチップイグニッションお前に判決を言い渡

すお前らはご立派なプライマス様をいやって言うほどしつこくもて遊んだので有罪に処すジェットマキシマムハンガー」

敵たちは跡かともなく消えた。

オメガスプリーム「ジェットスクラインやりすぎだろっ。」

入り口のガラスが割れた。

シンシエニモンが大勢入り込んだ。

まずいと思ったのは、ハイテクス星人である。

トウダイグサ・スカーレット大佐「こいつ意外とでかいぞデジモン史上最大じゃねえのか？」

ラッセル「確かに、大きき弐キロメートルってどんだけでかいんじや。」

水素「ということは分かったぞ。このシェンシニモンを倒す方法。」

フレイキー「なーに倒す方法って？」

水素「デジタルワールドに存在するロイヤルナイトだ。」

シンシエニモンは緊急停止した。

なんでだろうとフリッピーが見た瞬間。

「ゲッ進化が始まる。」

シンシェニモンは進化した。究極体に・・・

その時、オメガモンがある情報を手に入れた。

「なにっ宇宙で新型デジモンが暴走中。これは大変だ。全員に知らせなければ。」

スプレンドイドは必死になって敵を一掃したが

「何だいこいつら私の攻撃喰らわないところか逆に食べているじゃないか。」

カドルス「これじゃ駄目だ！。」

「ホールブレンガーグレード」

と究極体のシンシェニモンは言うがその時巨大な槍がどこからもなく出てきた。

しかも見覚えのある槍。

フリッピー達はビックリした。

今度は巨大な盾を持つまるで大きな騎士それに敵を睨む眼そうロイヤルナイツの一人デュークモンだ。

つまりあの槍はデュークモンのもので槍で、叩き付けたシンシェニモンの二体は消滅した。

シンシエニモン達「小癩な叩き殺してくれる。喰らえエックスウェーブ。」

デュークモン「ならばこの技で返してくれるファイナル・エリシオン」

一気呵成に、シンシエニモンは次々と消滅した。

皆は避難した。

デーシンシエニモンは、怒りを感じはくちょう座Xー？から抜け出した。

彼は近くにある巨大な巨星を見ていた。

「こんなものは私しか壊せん。刹那と隠蔽グランドホールブレンガ」。

赤色巨星は破壊された。

セイバートロン星では四体のロイヤルナイツが派遣された。

「あれは十王か。」

サタンクロス「おれは地球で困っているやつらに手助けしに行く。俺と一緒に行く奴はえんか。」

マグナモン「君は確かサタンクロスだよな」

サタンクロスはトランスフォームした。

「俺がそうだが？」

マグナモン「この窮地お前らはなにを考える。」

サタンクロス「プライマス様の言うこと以外誰ともそんなことはいえん。」

マグナモン「だったらお前が言っているプライマスに聞いて来いということだな。」

ベクタープライム「サタンクロス様、彼と話しても無駄なことですよ。急いで地球に行きましょう。」

マグナモンは待てつと言ったが、二人には聞こえなかった。

(むしろ聞く耳持たない)

デーシンシェニモンは、刻一刻と近づいている。

スペリオンとマスタージンライは、デーシンシェニモンを追跡していた。

「なんてでかさだ」

「ユニクロンサイズじゃないか。」

シンシェニモン達が二人に、襲いかかったときクレニアムモンが出てきた。

「お前らは追跡を続ける私はこのシンシェニモンとやらを倒したあとを追いかける。」

スペリオン「分かった。」

シンシェニモン「ホールブレンガーグレード」

しかしクレニウムモンの魔楯アヴァロンによって塞がれた。

「今度こっちが行く。」

クレニウムモンは、魔槍クラウ・ソラスを自分より高くあげ回し始めた。

「エンド・ワルツ」

シンシェニモン軍団は消滅した。

「急ぐ前に。」

クレニウムモンはプライマスがいる方向へ向かった。

宇宙政府ではデュークモンとスプラングとゴットセクターが、シンシェニモンと死闘を繰り広げていた。

地球でも三体のロイヤルナイツが派遣された。

ドウフトモンはロディマスコンボイと出会った。

「セイバートロン星でもロイヤルナイツみたいな組織がある。」

「もしで会えればコンタクトはとれるか？」

「それは分らん。」

セイバートロン星にもロイヤルナイツらしき組織、そう、十王だ。

何やら不思議な音。

今にも動き出しそうな物体そうデーシンシェニモンだ。

「あこが宇宙政府か破壊しよう。」

そのとき一筋の光がデーシンシェニモンに襲いかかった。

「宇宙政府には一步も手を出させない。」

この声は、プライマス。そしてクレニウムモンが、宇宙政府の入り口に入っていた。

しかし、デーシンシェニモン「くだらん」

「これが俺の魔王槍ブラックホールセイバーを喰らえ！」

プライマスは見事に槍をつかんだ。

プライマス「私の攻撃で散りなさいアトランティス・キャノン！」

デーシンシェニモンに命中したのだが、

効かない攻撃の傷跡も一つも残っていない。

確かスタースクリームを一回目に撃退した時には効果があったのだが、このデーシンシエニモンにはビクともしない。

むしろ破壊を司るのでそもそもプライマスの攻撃すら効かないのかもしれない。

シンシエニモンは、全滅した。

急いでロイヤルナイツと十王は、プライマスが今いるところへと向かった。

「ノアアクセル・インパクト」

プライマスが放ったビームでさえデーシンシエニモンに当たっても効かない。

プライマスは、直接デーシンシエニモンを殴ったが効かなかった。

デーシンシエニモン「どれだけ攻撃しようが無駄だ。」

十王が揃いプライマスが強化された。

「ノアハンティング・イーエックスインパクト」

デーシンシエニモンに命中しかしこれもやはり効果がなかった。

デーシンシエニモン「仕方ない俺の最終兵器魔王陣テックス・オー
ルでも繰り出しますか。」

「プロトタイム・デリートダークヘル」

デーシンシェニモンの技が繰り出されたとたんみんなの意識が飛んだ。

プライマスが機能停止状態になっていた。

デーシンシェニモン「宇宙政府消えないなもう一発で消せそうだし。」

フリッピー「まずいよ。」

危機訪れた。

しかし、望みはある。

十王達が、ロイヤルナイトを呼ぶことによって起こる奇跡が。

十王達「ロイヤルナイトよプライマスと我々に力を託してくれ。」

プライマスところにロイヤルナイト達は来た。

デーシンシェニモン「無駄だその傷だらけの神を守るうとしてもこれでお終いにしてやる。」

ロイヤルナイトは、プライマスの体内に入り込んだ。

プライマスの体が光った。

デーシンシェニモン「プロトタイム・デリートダークヘル」

しかしプライマスの方が最大限だった。

更に技がリセットされた。

「プライマス・イグドラシルモード」

その輝いた姿はとても強く美しく本当の神のような力だ。

デーシンシェニモンは魔王槍ウラックホールセイバーで倒そうとしたがプライマス・イグドラシルモードにその槍を破壊された。

「プロトタイム・デリートダークヘル」

今度は、魔王陣まで破壊されてしまった。

「刹那と破壊グランドホールブレンガー」

この攻撃も喰らわない。

プライマス・イグドラシルモードは、プライマスが進化した姿であり神ではなく超神である。

「再生という名の剣ラファエルセイバー」

グサツという刺さった音。

デーシンシェニモンは自由槍を破壊されプライマス・イグドラシルモードは、見事デーシンシェニモンの胸を射抜いたのである。

デーシンシェニモンは、ゆっくりとデータが崩壊していった。

プライマス・イグドラシルモードは、デーシンシェニモンが消えて行くのひそかに見守った。そしてデーシンシェニモンはデジタマへと戻りデジタマは消滅した。

十王とロイヤルナイツは、元の場所に戻ったセイバートロン星にいた。

ほかのみんなもいた。

クレニウムモン「エンシェントいや十王君たちと一緒に行動できて光栄だ。ロイヤルナイツ一同より感謝する。」

サタンクロス「ロイヤルナイツ君たちがいなかったら宇宙はあいつのものになっていたかもしれない。こちらでも感謝する。」

この宇宙に世界を超えた絆が新しく成立した。

デュークモン「オメガスプリームまた君と協力できる日までまつよ。」

シックスナイト「もしよかったら俺達もデジタルワールドへ行ってもいいかな。無理だと思うけど。」

ロードナイトモン「この絆は断たれん次の時まで遭おうよ十王たち。」

ロイヤルナイツは、デジタルワールドに戻っていった。

スペリオン「そういえばアラートグレード」

「どうしたスペリオン」

「ロイヤルナイツって我らと同じような組織だな。」

「言われてみれば確かに」

サタンクロス「ロイヤルナイツと十王が絆を結べたのは例でもないそれぞれが想う正義が、世界を超えて絆まで結ばしたんだろう。プライマスが強くなったのもこの絆や正義のおかげかもしれない。ただし、デーシンシエ二モンの罪は重かるう。」

「おやおや軍人くん。涙なぞ流して感涙でもしているのかね。」

「つるせえ変態ヒーロー僕は、感動しているんだから。」

マグナモン「十王がかねらは自分が想う萃された正義を見てプライマスという神を信仰しているのか。」

オメガモン「デーシンシエ二モンの脅威から我らも戦ったということとはロイヤルナイツという組織も今頃宇宙で轟いているのだろう。」

地球に戻ったらハッピーツリーワールドに行かなきゃね。

「うん。」

モールは「そうですね早めにいきましょう。」

ハンディは「ハッピーツリーワールドって楽しいからなあ。」

ギグルスは「ずっと前は血と臓器で見舞われた世界だったけどね。」

カドルスは、照れ顔で言った。

「怖いこと言わないでよギグルス。」

ペチュニア「早速寝ましょう疲れたわ。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「まあ俺はこれから、今回の闘いのファイルを整理しておくとするか。」

だが、宇宙にはさらなる悪人がいることを知る。

「我々、黄想天外は、六年前に結成されたスペース・パイレーツ。我々は、地球にあるウイルスをばら撒くことを決意した。」

「リーダーの命令だ。」

このリーダーの名は、薬物という大罪を持つ新七大魔王の一人、アブリマウンテリエモンという究極体の新型デジモンだ。

其の手下は、どうも形がブサイクなエイリアン達だ。

アブリマウンテリエモンの必殺技を利用して、数多くの惑星が蝕まれた。

次回作決定

劇場小説版ハッピーツリーワールド宇宙海賊黄想天外の秘密を追え
！東方黄想天外

2月1日公開！

予告編

アブリマウンテリエモンが解き放ったウィルスを破壊すべく立ち上がった四人の聖なる力を持つ者。キッズウィンと聖白蓮と歩丸鷹涅とアングル。水素の四人。

「聖なる雷を司る者、キッズウィン。僕の雷で、お前ら全員消してやる。」

「聖なる魔法を司る者、聖白蓮。私の魔法にあなたたちの身体はついて行けるかしら？」

「聖なる炎を司る者、歩丸鷹涅。俺は、聖なる炎の力を最強という感じに信じた者だ。恐いなら、この星を去れ。」

「聖なる裁判者、アングル。水素。拙者の心に感染は無い。貴様らの血を消すだけだ。」

「貴様らの聖、怖くもない。」

「それはどうかな。」

劇場小説版ハッピーツリーワールド宇宙海賊黄想天外の秘密を追え
！東方黄想天外

2010年2月1日公開！

読み逃したら、ひどく後悔することになる。

(後書き)

ハッピーツリーワールドシリーズにデジモンが再び参戦しました。次回作もそうなんです。今回は、新七大魔王という新たな軍団の序章として書きました。1月は、ハッピーツリーワールドシリーズの劇場小説版はありません。2月に期待してくださることをお願い致します。今回のキーワードは「破壊」です。次回作のキーワードは「薬物」です。感想よろしくと、評価宜しく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2180j/>

劇場小説版ハッピーツリーワールド黒き宇宙に潜む危機シンシェニモン襲来！

2010年10月8日23時32分発行